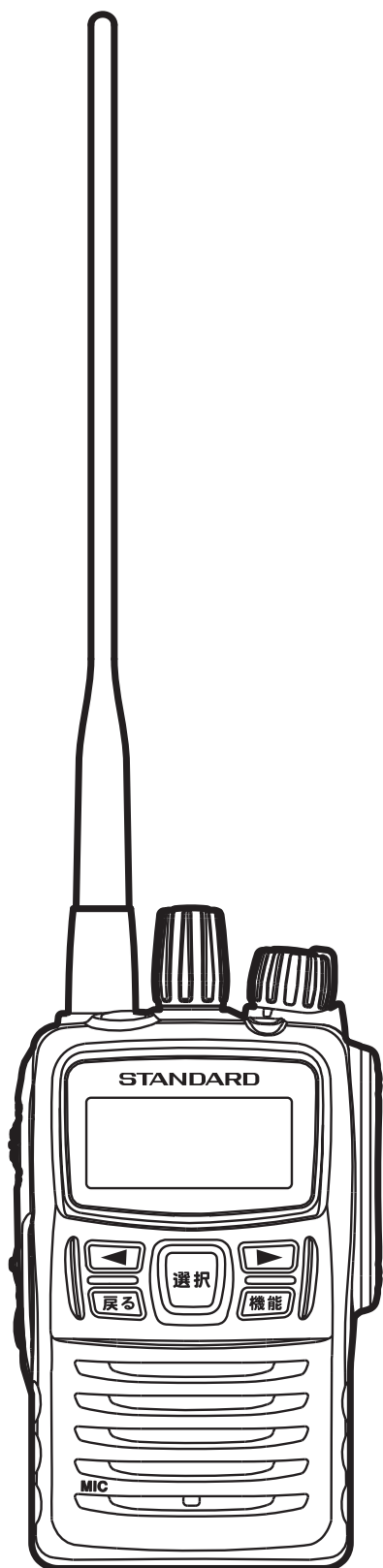




デジタル簡易無線電話装置

VXD450S

取扱説明書



無線局種別コード：3S（登録局）
4値 FSK 変調 上空・高所利用

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

この無線電話装置は国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目次

お客様へ.....	1
防水性について.....	1
メンテナンスのお勧め.....	1
安全上のご注意.....	2
ご使用にあたって.....	5
構成品.....	5
各部の名前と機能.....	6
本体.....	6
ディスプレイ.....	8
LED インジケーターの動作概要.....	8
ベルトクリップの使いかた.....	9
ベルトクリップ / ダミーボードの取り付け.....	9
ベルトクリップの使いかた.....	9
電池パックの取り付け / 取り外し.....	10
リチウムイオン電池パックを取り付ける.....	10
リチウムイオン電池パックを取り外す.....	10
電池の消耗について.....	10
リチウムイオン電池パックの充電方法.....	11
デジタル簡易無線局について.....	12
UC (ユーザーコード) 通信のしかた.....	13
通信方法.....	13
個別通信のしかた.....	17
呼び出し方法.....	18
呼び出しを受けたとき.....	22
その他の基本ボタン操作.....	23
録音ボタン.....	23
バックライト / キーロックボタン.....	23
選択ボタン.....	24
機能ボタン.....	24
緊急ボタン.....	24
キャリアセンス機能について.....	26
簡易リスト.....	27
送受信メニュー.....	30
拡張機能 (コールモード).....	34
拡張機能 (セットモード).....	44
オプションマイクの取り付け.....	57
キャリングケース “LCC-D450” の使いかた.....	58
故障かな? と思う前に.....	60
アフターサービス.....	60
定格.....	61
オプション.....	63
索引.....	64

お客様へ

● お願い

- ◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- ◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- ◎ 本機に外部マイク・ホンなどを接続する際は、必ず当社純正のオプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。
- ◎ 製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
- ◎ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。
販売店にて、これらの設定を変更している場合は、操作方法が異なる場合があります。詳しくは、設定の変更をおこなった販売店にお問い合わせください。
- ◎ 内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店または、八重洲無線株式会社国内営業部（電話：03-6711-4055）に御依頼ください。

防水性について

本機は、IEC 国際規格 IP67 相当（防塵等級 6^{※1}、防水等級 7^{※2}）の防塵、防水性能を有しています。この性能を末永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ◎ キーやボタンのラバー、MIC/SP 端子のキャップ、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ◎ 海水、砂、泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎ 本機は、水中での使用はできません。

※1：粉塵が内部に侵入しない。

※2：圧力を加えない真水・静水に水深 1m の位置で 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

メンテナンスのお勧め

下記のいずれかに該当する場合は、メンテナンスをお勧めいたします。

なお、メンテナンス代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

- ・ お買い上げから 1 年経過した後
- ・ 落下や衝撃が加わった場合
- ・ メンテナンスを行って 1 年経過した後
- ・ キズ劣化等が確認された場合

安全上のご注意 ～必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。



危険

誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



行ってはならない禁止事項です（例  分解禁止）。



必ず守っていただきたい注意事項です。



危険



自動車を運転しながら操作しない

事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。

運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてから操作してください。



航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る

電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。



引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない

発火事故や落下事故などの原因になります。



電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険

化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者診断を受けてください。



電源端子をはんだ付けやショートをしない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。



リチウムイオン電池パックを火のそばや、炎天下など高温の場所で

充電・使用・放置しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



警告



分解や改造をしない

本機は電波法に基づく無線局です。

分解や改造は違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。



本機は、“IP67 相当”の防浸構造になっておりますが、特に海水などがついたときは水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる

性能や寿命を低下させる原因になります。



自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



心臓ペースメーカー装着者は使用しない

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



当社指定以外の充電器を使用しない

火災や故障の原因になります。



煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、リチウムイオン電池パックを外す

火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店または、八重洲無線株式会社国内営業部に修理をご依頼ください。



心臓ペースメーカー装着者に配慮し、人ごみでは電源を切る

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



注意



指定以外のオプションを使用しない

故障や破損の原因になります。



アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしない

本人や他人に当たり、ケガの原因になります。

また、本体の故障や破損の原因にもなります。



アンテナを折り曲げたりしない

アンテナの変形や破損の原因になります。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。



リチウムイオン電池パックを、指定の充電器で充電するときの温度範囲は
5℃～ 35℃です
これ以外の温度での使用は、故障の原因になります。



磁気カードなどを無線電話装置に近づけない
キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあり
ます。



人の多い場所では使用しない
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



無線電話装置を直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。

リチウムイオン電池パック (オプション) のリサイクルについて

オプションのリチウムイオン電池/パックはリサイクルできます。

リチウムイオン電池/パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサ
イクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.

U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

ご使用にあたって

● 簡易無線局登録申請

- 本機は、デジタル簡易無線機（登録局）として認証を取得しています。無線局の登録および開設申請をすることでご利用いただけます。
- 登録申請および開設申請につきましてはご購入いただきました販売店、または八重洲無線株式会社国内営業部あてにお問い合わせください。
- 本機は、ARIB 規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機（種別コード「3S」）との互換性を確保しています。
※ ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。

● 使用形態にあわせた設定

本取扱説明書は、出荷初期状態での説明に加えて、カスタム設定の内容も含まれています。

ご購入に際し販売店、または八重洲無線株式会社国内営業部とご相談の上、無線機の設定を行ってください。

ご使用に当たっては、本取扱説明書をよくお読みいただくとともに、大切に保管くださいますようお願いいたします。

◎ 基本設定

デジタル運用に必要なUC（ユーザーコード）や秘話コードなどを設定します。

◎ カスタム設定

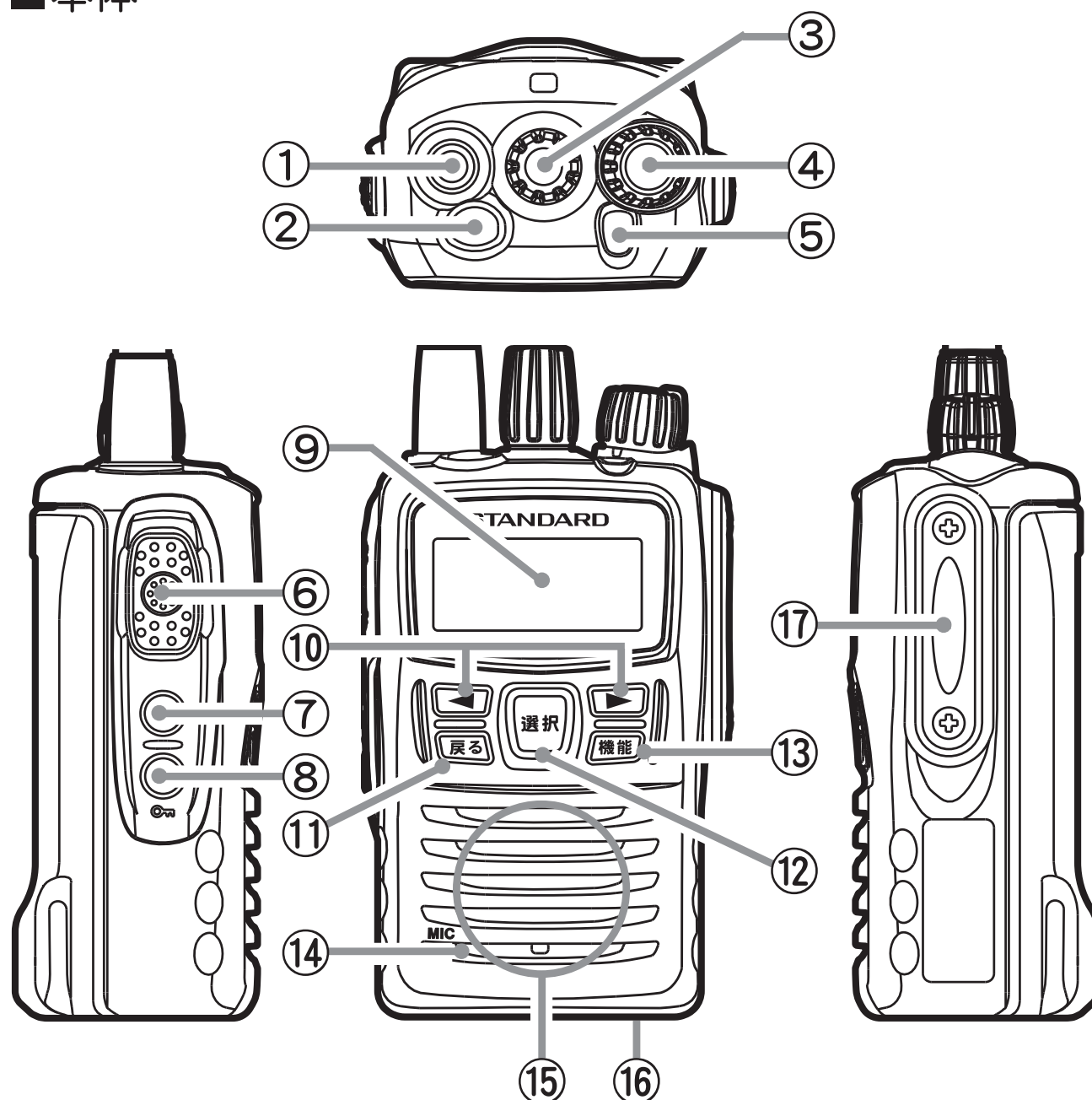
ご利用形態にあわせた個別通信機能（個別選択呼出し機能）のIDや名称設定などは購入時に販売店とご相談の上、設定をおこなってください。

構成品

◎ 本体.....	1	◎ ダミーボード	1
◎ MIC/SP 端子カバー.....	1	◎ 取扱説明書（本書）.....	1
◎ ベルトクリップ	1	◎ 保証書.....	1

各部の名前と機能

■ 本体



① アンテナ

② 緊急ボタン

緊急時に約2秒間押し続けることで、緊急モード動作になります(25ページ参照)。

③ ロータリースイッチ

チャンネル、呼び出す相手先の変更や、拡張機能の項目選択時にまわします。

④ 電源スイッチ /
音量調節ツマミ

電源のON/OFFと音量の調節をします。

- ⑤ LED インジケーター 受信中は通信モードにより“緑色”“水色”“青または白色”の点滅、送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。バッテリー消耗時は、“赤色”で点滅します。
- ⑥ PTT ボタン PTT ボタン（通話ボタン）を押すと、無線機は送信状態になります。放すと待ち受け / 受信状態になります。
- ⑦ 録音ボタン 受信音声の録音の開始 / 停止を行います（23 ページ参照）。
- ⑧ バックライト / キーロックボタン 短く押すことでディスプレイの照明が ON/OFF します。2 秒間押し続けると、誤って各種ボタンに触れても設定が変わらないようにロックすることができます。もう一度 2 秒間押し続けるとロック解除となります。
- ⑨ フルドットディスプレイ 各種状態や情報を表示します。
- ⑩ ◀/▶ ボタン チャンネル切替え及び個別選択呼出しの呼先個別番号（ID 番号）の切替えをします。
- ⑪ 戻るボタン 各種設定を行っているときに、1 つ前の状態に戻すことができます。
- ⑫ 選択ボタン ◎ “選択” ボタンを押しながら“電源”スイッチをまわすことで拡張機能画面になります。
◎ 選択呼出し表示中、「一斉 ➡ グループ ➡ 個別 ➡ 一斉・・・」の順番に切替わります。
- ⑬ 機能ボタン 短く押すことで簡易リスト画面（27 ページ参照）を表示します。
2 秒以上押し続けることにより送受信メニューに切り替わります（24 ページ参照）。
- ⑭ マイク この位置にマイクが内蔵されています。
- ⑮ スピーカー ここから相手の音声や操作音が聞こえます。
- ⑯ ノイズキャンセリング孔 周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するために設けられています。この穴は塞がないようにしてください。
- ⑰ MIC/SP 端子 スピーカーマイクなどのオプションを接続します。

■ディスプレイ



- アイコン表示部
- チャンネル / 呼び先等表示部
- 緊急状態 / 通信状態表示 / 電池残量表示

	アンテナ（電界強度表示 / 送信出力表示） 受信時：受信している電波の強さに応じて 4 段階で表示します。 送信時：“” が点灯します。
ID CH	ロータリースイッチの動作表示 ID ：呼び先選択機能として動作します。 CH ：チャンネル選択機能として動作します。
	秘話 秘話機能が ON のときに点灯します。
	メッセージ ショートメッセージ送信中および、受信中に点滅します。
REC	録音メモアイコン 音声メモ機能が“ON”のときに点灯します。
On	キーロック 設定されたボタンやツマミがロックされ、無効の状態の時に点灯します。

LED インジケーターの動作概要

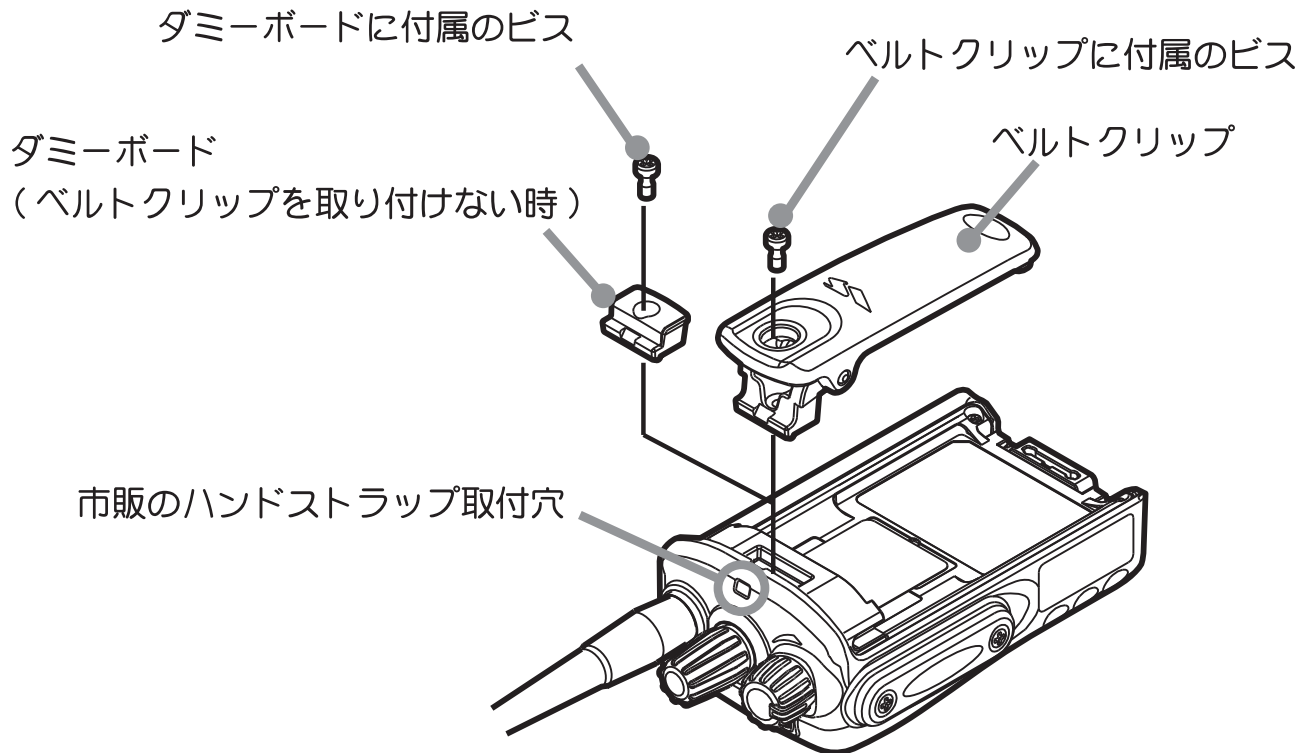
LED インジケーターは通信状況・動作状況に応じて下記のように点灯・点滅します。

LED の色・状態	通信（動作）状態
緑色点滅	UC 通信受信時、他局通信時
赤色点灯	UC 通信送信時、個別通信送信時
青色点滅	秘話 UC 通信受信時、秘話個別通信受信時
青色点灯	秘話 UC 通信送信時、秘話個別通信送信時
水色点滅	個別通信受信時
水色点灯	個別通信および、秘話個別通信での通話保持時間の時（および不在着信時）
白色点滅	緊急アラーム動作時および緊急信号着信時

ベルトクリップの取り付けと使いかた

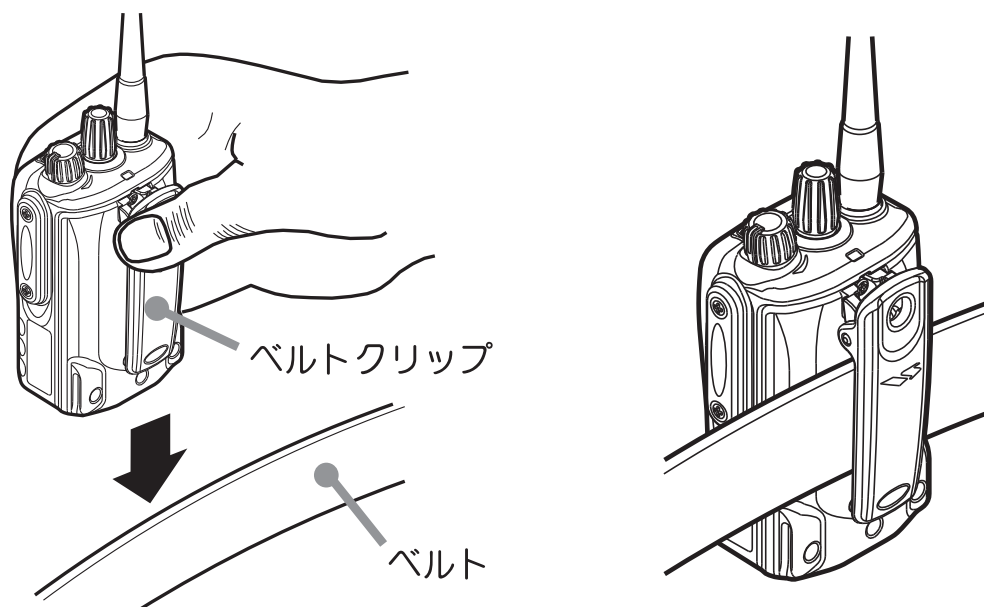
ベルトクリップ / ダミーボードの取り付け

- ① リチウムイオン電池パックまたは、アルカリ単3乾電池ケースを外します。
- ② ダミーボードを外し、ベルトクリップに付属しているビスで、ベルトクリップを取り付けます。



ベルトクリップの使いかた

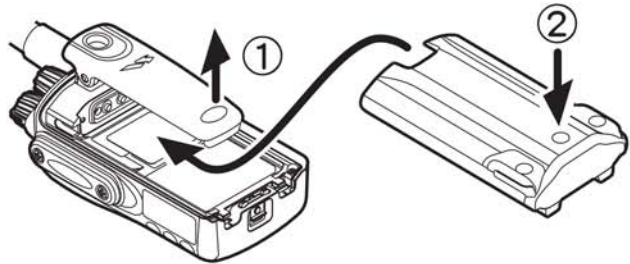
ベルトクリップの先端を指で押し、ベルトへ確実に取り付けてください。



電池パックの取り付け / 取り外し

リチウムイオン電池パックを取り付ける

- ① ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。
- ② リチウムイオン電池パックの背面を押しながらスライドし、「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。

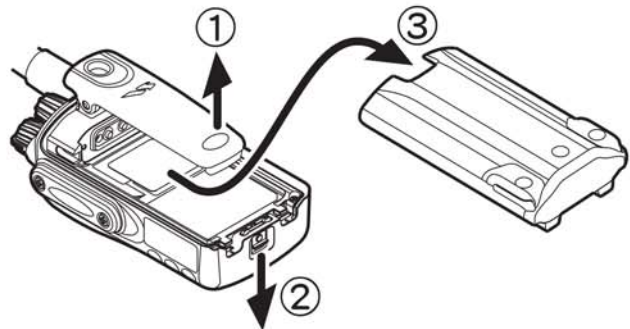


注意

- 電池パックが確実に取り付けられていないと、落下事故や故障の原因になります。
- 機能性を確保するため、電池パックと本体との接合は、きつく設計されています。

リチウムイオン電池パックを取り外す

- ① ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。
- ② ロックレバーを矢印の方向に下げます。
- ③ リチウムイオン電池パックを下側に引きながら外します。



注意

- ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。
- 機能性を確保するため、電池パックと本体との接合は、きつく設計されています。

電池の消耗について

電池が消耗すると、ディスプレイの電池マークが右記のように変化します※。

電池マークが点滅し、LED インジケーターが赤色に点滅した時は、直ちに充電を行ってください。

※ 消耗状態を正しく表示させるため、“セットモード”の“F-14 電池残量表示”（55 ページ参照）で、使用する電池の種類を設定してください。



十分使えます



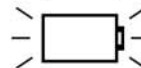
まだ使えます



残りわずかです



空になりました



すぐに充電または交換してください

リチウムイオン電池持続時間※

FNB-V86 シリーズ	約 11 時間
FNB-V87 シリーズ	約 18 時間
FNB-V92 シリーズ	約 24 時間

※電池持続時間は「送信出力 1W 時、送信 5：受信 5：待ち受け 90」の測定条件になります。周囲の温度により使用できる時間が異なることがあります（特に寒冷地では使用時間が短くなります）。

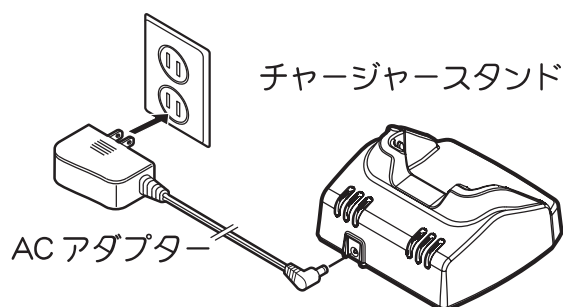
リチウムイオン電池パックの充電方法

オプションの急速充電器“VAC-50A”を接続して、リチウムイオン電池パックを充電します（下図参照）。

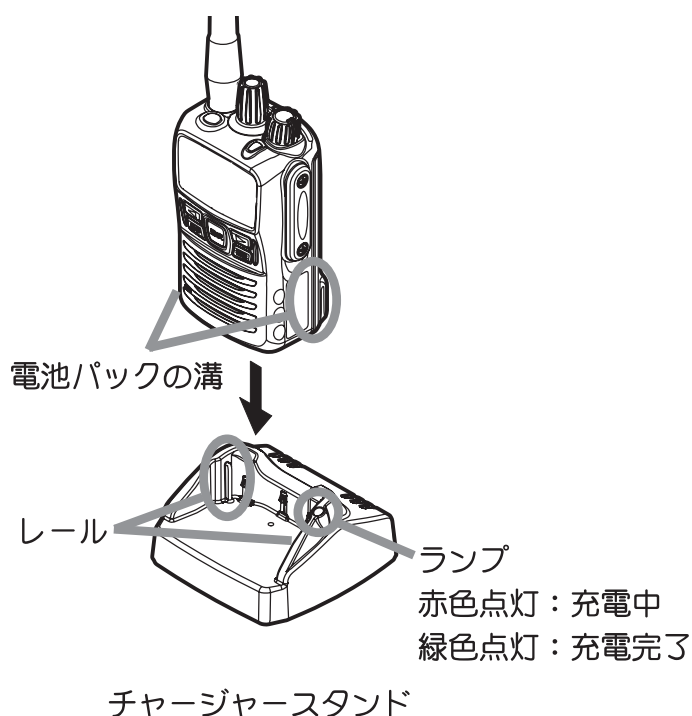
○リチウムイオン電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

充電時間	FNB-V86 シリーズ	FNB-V87 シリーズ	FNB-V92 シリーズ
	約 100 分	約 160 分	約 200 分

1. チャージャースタンドの背面にあるジャックに、ACアダプターのコネクターを差し込み、電源プラグをコンセント（AC 100V）に接続します。



2. 電源を切った無線電話装置（または電池パック）をチャージャースタンドに挿し込みます。



3. チャージャースタンドのランプが赤色に点灯し、充電が完了するとランプは緑色に変わります。

補足

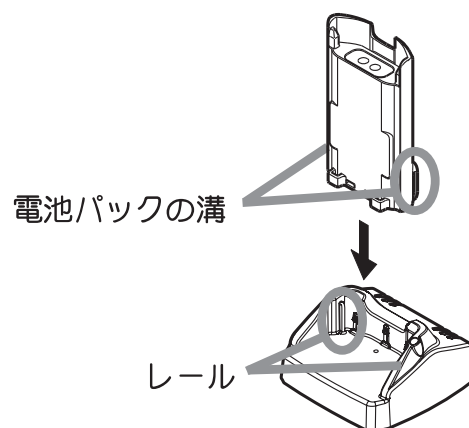
充電終了後、ACアダプターをコンセントから外してください。

注意

長時間充電したままにしておくと、リチウムイオン電池パックを劣化させることがあります。

電池パック単体で充電 する際のご注意

リチウムイオン電池パックを単体で充電するときは、リチウムイオン電池パックの溝をチャージャースタンド内側のレールに合わせて挿し込みます。



デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	35 1MHz	30	陸上及び 日本周辺海域
登録局（上空利用）	3S		5	陸上及びその上空、 日本周辺海域

本機は種別コード「3S」の“登録局”として開発されたものです。

チャンネル構成

本機のチャンネル構成（ARIB 無線設備の種別コード「3S」）

チャンネル構成

“CH S1 上空”（35 1.16875MHz）から 6.25kHz 間隔で、“CH S5 上空”（35 1.19375MHz）までの 5 チャンネルが利用できます。

通話方式

VXD450S では、下記の二通りの通信方式で運用することができます。

なお、工場出荷時は UC（ユーザーコード）通信に設定されていますので、通信相手と同じ通話方式に設定してからご使用ください（36 ページ参照）。

◎ UC（ユーザーコード）通信（13 ページ参照）

同じチャンネルで、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士が通話できる通信方式。

◎ 個別通信（17 ページ参照）

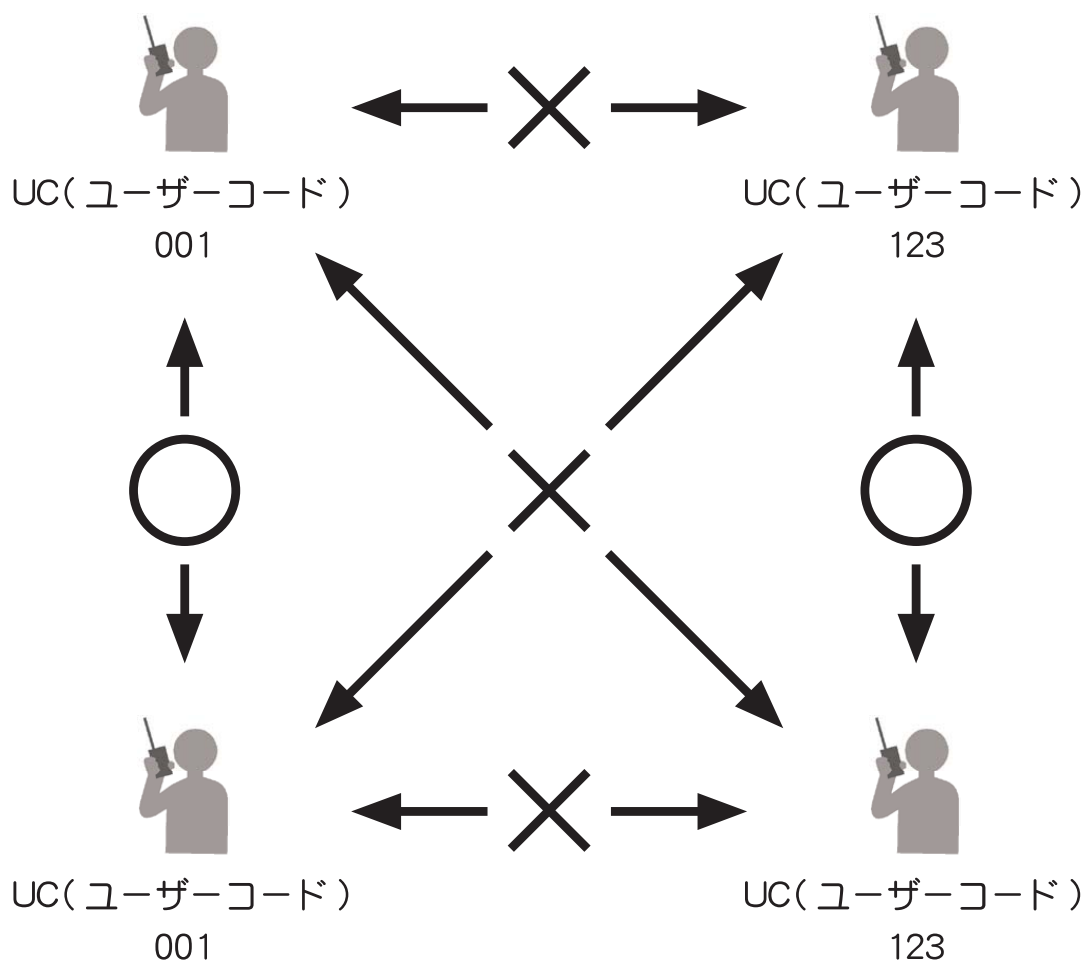
同じチャンネルで、同じ UC（ユーザーコード）を設定している特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる方式。

UC（ユーザーコード）通信のしかた

全員が同じチャンネル番号にあわせていても、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士だけが、通話することができる通信方式です。

ユーザーコードの設定方法は、36 ページを参照してください。

- ◎ ユーザーコードは、3桁の数字で構成されていて、“000” ～ “511” の間で決めることができます。
- ◎ ユーザーコード “000” は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は “000” を設定している相手としか通信することができません。
- ◎ UC 通信は、ARIB 規格で規定されており、種別コード 3S の他社製デジタル簡易無線トランシーバーと通話互換があります。
- ◎ 本機の UC（ユーザーコード）は、初期値（工場出荷時）では “000” に設定されています。
- ◎ 他ユーザーとの混信を避けるため、UC（ユーザーコード）は “000” 以外に設定することをお勧めいたします。
- ◎ ユーザーコード “000” に設定した場合、相手の着信履歴へ残すことができません。



注意

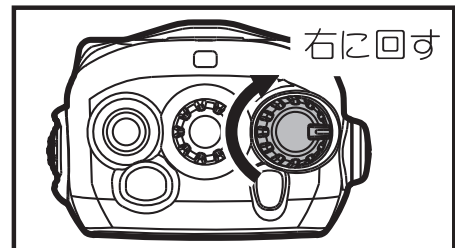
通信を行う前にユーザーコードの確認をしてください。
相手局とユーザーコードが異なっている場合は交信できません。
ユーザーコードの確認方法は簡易リストの自局情報（29 ページ参照）
で確認することができます。

① 電源を入れます

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が約 1 秒間表示され「ピポッ」と電子音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルと右下に“UC”が表示されます。



② 音量を調節します

音量調節ツマミを 10 ～ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

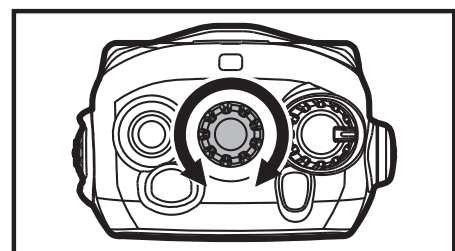


③ チャンネルをあわせます

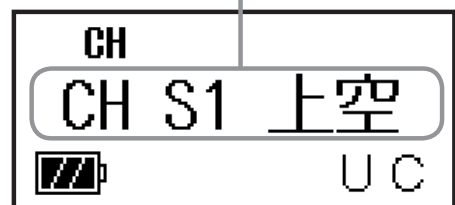
ロータリースイッチをまわして（または“◀/▶”ボタンを押して）、通話したい相手と同じチャンネルにあわせます。

補足

- ディスプレイに“CH”が点灯しているときはロータリースイッチで、“ID”が点灯しているときは、“◀/▶”ボタンでチャンネルを選択してください。この設定は“セットモード”の“F04 ロータリー”で行うことができます（47 ページ参照）。
- “CH S1 上空”にあわせた時、「ポピピ」というビープ音が鳴ります。無線機を腰につけていた状態でも“CH S1 上空”を確認することができます。



チャンネル番号



次ページに続く

④ 送信（通話）します

PTT（通話）ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

補足

- 混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能（26 ページ参照）が自動的に動作します。
- マイク口ホンと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。
- 送信中は、LED インジケーターが赤色または青色に点灯し（8 ページ参照）、ディスプレイに “” が点灯します。
- 連続送信時間は 5 分未満と決められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から 5 分が経過する前に、自動的に送信が止まります。
そのまま PTT ボタン（通話ボタン）を押し続けた場合、送信を開始してから 5 分間経過すると、その後 1 分間は送信禁止状態になります。
アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。



次ページに続く

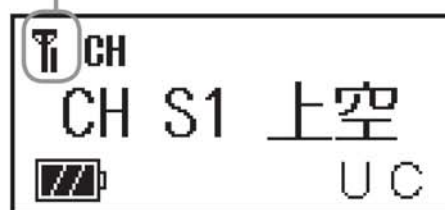
⑤ 相手の音声を受信します

PTT（通話）ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

信号を受信すると、LEDインジケーターが点滅し（8ページ参照）、電波の強さに応じて、ディスプレイの“アンテナマーク”が点灯します（最大4本）。

信号を受信すると点灯



⑥ 電源を切ります

電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、リチウムイオン電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。

注意

ロータリースイッチを切り替えて2秒以内に電源を切ると、電源を切る直前に設定したチャンネルは記憶されません。



秘話通信機能について（拡張機能“C12”参照）

UC 通信や個別通信において、設定した 32,767 通りの秘話鍵が一致する無線機同士のみ交信することができる機能です。

工場出荷時では、32,767 通りの秘話鍵からあらかじめ 20 種類の秘話コード（秘話 ID）をプリセットしてありますが、秘話機能は“OFF”に設定されています。

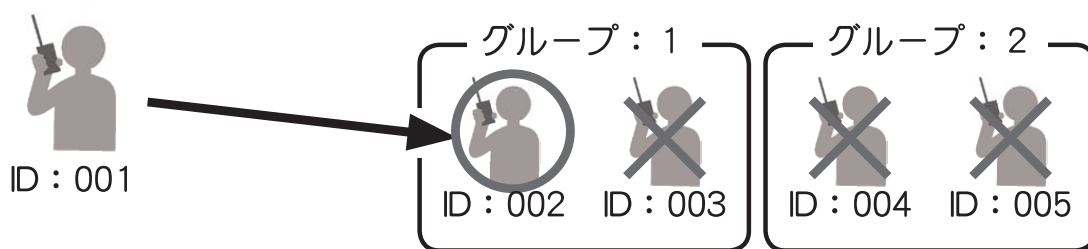
ご利用に際し、通話セキュリティを十分に確保するために、お買い上げいただきました販売店とご相談の上、32,767 通りの秘話鍵から任意に選択した数値を\$01～\$20 に設定することをお勧めいたします。

個別通信のしかた

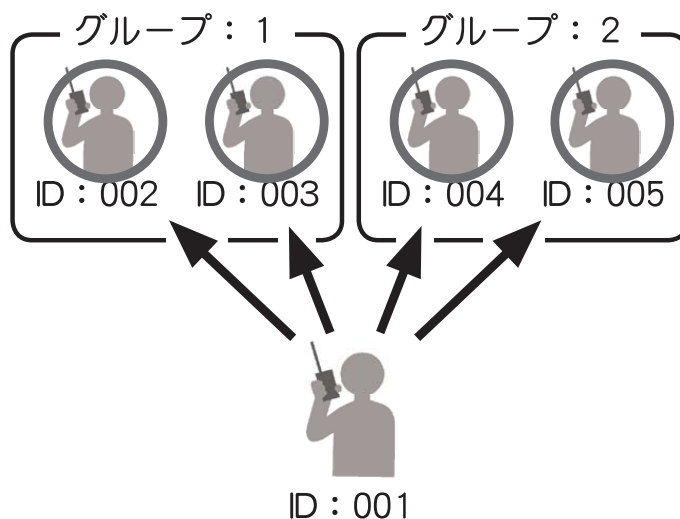
全員が同じチャンネル番号とUC(ユーザーコード)に合わせていても、特定の相手だけ呼び出したり(全員を一斉に呼び出すことも可能)、特定のグループに属する全ての局を呼び出して通話することができる通信方式です。

この通信方式を利用するには、各無線機に個別のID番号を設定する必要があります。個別IDの設定方法は、コールモードの「C04 自局ID」(38 ページ)をご覧ください。

特定の相手だけを呼び出す



全員を一斉に呼び出す



特定のグループに属する全員を呼び出す



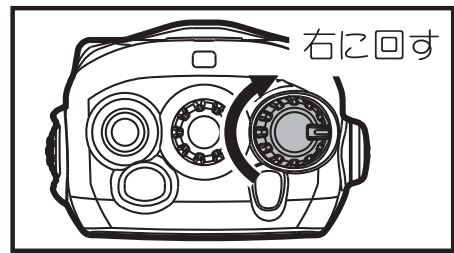
呼び出し方法

① 電源を入れます

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

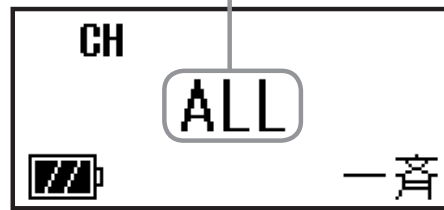
ディスプレイに起動画面が表示された後、自局IDが約1秒間表示され「ピポッ」と電子音が鳴ります。
ディスプレイに現在の呼び出し先が表示されます。



初期画面による自局IDの確認



呼び出し先



② 音量を調節します

音量調節ツマミを10～11時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。



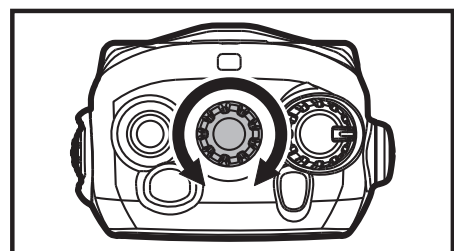
③ チャンネルをあわせます

ロータリースイッチをまわして（または“◀/▶”ボタンを押して）、通話したい相手と同じチャンネルにあわせます。

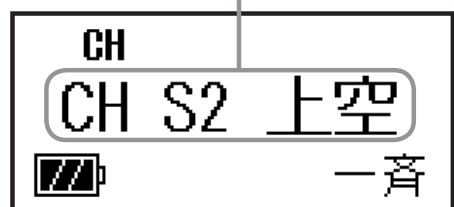
補足

- ディスプレイに“CH”が点灯しているときはロータリースイッチで、“ID”が点灯しているときは、“◀/▶”ボタンでチャンネルを選択してください。この設定は“セットモード”の“F04 ロータリー”で行うことができます（47ページ参照）。
- “CH S1 上空”にあわせた時、「ポピピ」というビープ音が鳴ります。無線機を腰につけていた状態でも“CH S1 上空”を確認することができます。

次ページに続く



チャンネル番号※



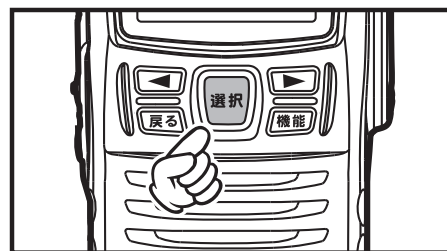
※：ロータリースイッチを回している間は、呼び出し先表示からチャンネル表示に変わります。

④ 呼び出し方法を選びます

“選択” ボタンを何度か押して、呼び出し方法を選びます。

補足

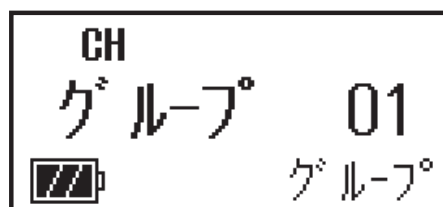
“選択” ボタンを押して“グループ”と“個別”を表示させたときは、登録されたIDの一番若い値が表示されます。



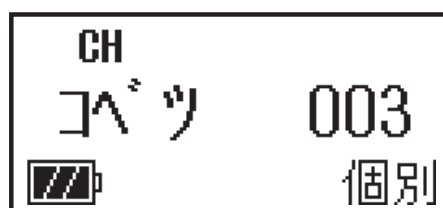
- ◎ 同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出したいとき



- ◎ 特定のグループに属する、全ての局を呼び出したいとき



- ◎ 特定の相手局を個別に呼び出したいとき



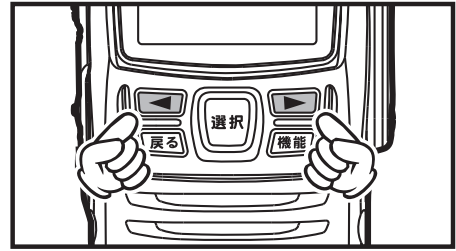
次ページに続く

⑤ 呼び出し先を選びます

特定の相手やグループを呼び出したい時は、“◀/▶” ボタンを押して（またはロータリースイッチをまわして），“個別ID” または “グループコード” を選択します。

補足

ディスプレイに “CH” が点灯しているときは “◀/▶” ボタンで、“ID” が点灯しているときは、ロータリースイッチで、呼び出し先を選択してください。この設定は “セットモード” の “F04 ロータリー” で行うことができます（47 ページ参照）。

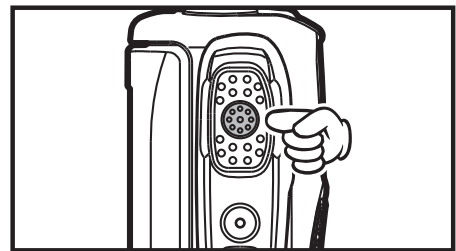


⑥ 送信（通話）します

PTT（通話）ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

補足

- 混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能（26 ページ参照）が自動的に動作します。
- マイクと口との間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。
- 送信中は、LED インジケーターが赤色または青色に点灯し（8 ページ参照）、ディスプレイに “冫” が点灯します。



次ページに続く

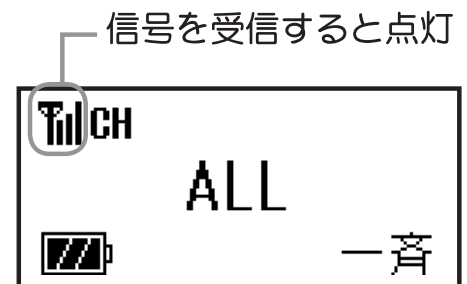
- 連続送信時間は 5 分未満と決められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から 5 分が経過する前に、自動的に送信が止まります。
そのまま PTT ボタン（通話ボタン）を押し続けた場合、送信を開始してから 5 分間経過すると、その後 1 分間は送信禁止状態になります。
アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

⑦ 相手の音声を受信します

PTT（通話）ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

- 信号を受信すると、LED インジケーターが水色に点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイの“”が点灯します（4 段階）。
- 相手からの応答がなく、応答待ち時間（通話タイマー 5 秒）が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
- 応答するタイミングは、応答待ち時間以内に行ってください。
- 個別通信では、お互いに通話が終わった時からタイマーがスタートします。



⑧ 電源を切ります

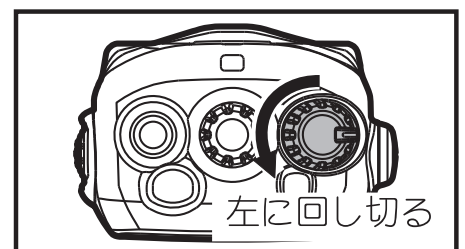
電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、リチウムイオン電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。

注意

ロータリースイッチを切り替えて 2 秒以内に電源を切ると、電源を切る直前に設定したチャンネルは記憶されません。



呼び出しを受けたとき

個別通信方式で呼び出しを受けると、ディスプレイ表示の点滅、電子音（着信ベル）、LED の点滅により、呼び出しがあったことを知らせ、同時に通話保持時間（初期値は 5 秒）が設定されます。

◎ すぐに応答することができなかった場合、通話保持時間が経過すると“不在着信状態”となり、呼び出してきた相手局 ID の表示が点滅します。その状態で PTT（通話）ボタンを押すと、相手局を呼び返すことができます。

◎ 不在着信状態をキャンセルする場合は、“戻る”ボタンを押してください。

補足

個別通信で呼び出された方式（個別、グループ、一斉）による電子音（着信ベル）などの設定は、34 ページの“拡張機能”を参照してください。また、LED の表示については、8 ページの“LED インジケータの動作概要”を参照してください。

◎個別呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出してきた相手局の ID が表示され、スピーカーから電子音が一回鳴り、受信中は LED インジケータが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。

補足

- 相手の ID の点滅表示と LED インジケータ点灯は、パネル面のボタンまたは、録音ボタンを押すまで続きます。
- 個別呼出しで呼ばれたときは、呼び出してきた相手局の ID が点滅表示され、LED インジケータが水色に点灯したままになります（不在着信機能）。応答する場合は、そのまま通話ボタンを押すと個別呼出しが行われます。
不在着信は最新1件が表示されます。



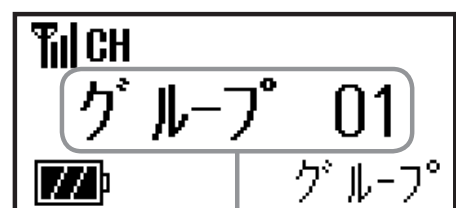
相手局の ID

◎グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出されたグループの ID が表示され、受信中は LED インジケータが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。

補足

呼び出しを受けた際に、電子音を鳴らすことができます（40 ページ参照）。



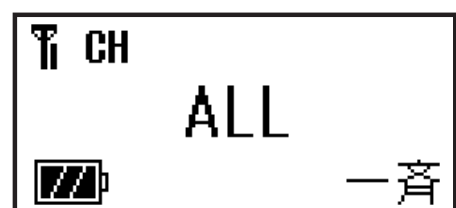
グループ ID

◎一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示され、LED インジケータが水色に点滅します。

補足

グループ呼び出しを受けた時に電子音が鳴るように変更した場合、一斉呼び出しを受けた際も、同様に電子音が鳴ります（40 ページ参照）。



その他の基本ボタン操作

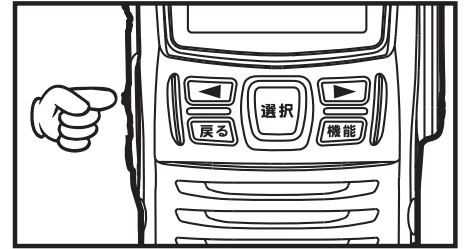
録音ボタン

受信している相手の音声を録音することができます。

◎録音のしかた

録音ボタンを押すと**REC**が点灯します。

音声が入ると録音を開始し、音声が無くなると録音を停止します。



再び録音ボタンを押すと**REC**が消灯し、録音機能を OFF にします。

補足

- 録音可能な累積時間は約 80 秒（録音状況により異なります）です。録音中に限度に達すると「ピー」とアラームが鳴り**REC**は自動的に消灯し、以降録音ができないことを知らせます。
- 録音累積時間が限度に達すると、録音ボタンは無効となります。新しい録音を可能にするためには録音メモを消去することで再び録音が可能になります。

◎再生のしかた

録音された音声の再生は、簡易リストで行います（28 ページの“録音メモ”を参照）。

補足

録音された内容を消去したい場合は、28 ページの“録音メモ”を参照してください。

バックライト / キーロック “On” ボタン

短く押すと約 5 秒間ディスプレイの照明が点灯します。また、2 秒間押すと誤って各ボタンを押しても、設定が変わらないようにするキーロックが動作します。

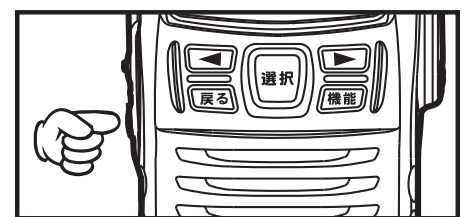
◎バックライトボタン

短く押すと、約 5 秒間ディスプレイの照明が点灯します。

◎キーロックボタン

“On” ボタンを2秒間押します。

ディスプレイに “On” が点灯し、ボタンがロックされます。



補足

- キーロックが動作中に各ボタンを押すと、ピープ音が鳴ると同時に“-LOCK-”が表示され、ロック中であることを知らせます。
- 工場出荷時ではキーロック機能は“前面”に設定されています（48 ページ参照）。
- PTT（通話）ボタンまたはツマミ類についてはロックすることができます（販売店にご相談ください）。

ロックを解除するには

ロックが動作中に “On” ボタンを 2 秒間押し続けるとロックが解除されます。

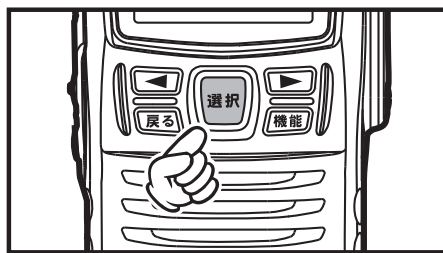
ディスプレイの “On” 表示が消えます。

選択ボタン

個別通信運用時に、呼び出し先リスト（一斉、グループ、個別）を表示します。

補足

個別通信で宛先画面を設定している場合は、約2秒後にチャンネル表示から呼び出し先表示に切り替わります。



機能ボタン

“機能” ボタンは、押し方により2種類の動作をおこないます。

◎簡易リスト

短く押します。

「簡易リスト」が表示され、録音内容の再生や、自局のUC、個別ID、グループコードまた、無線機の周波数などの情報を確認することができます。

詳細は、27 ページの“簡易リスト”をご覧ください。



◎送受信メニュー（個別通信で運用の時に有効です）

約2秒以上押します。

「送受信メニュー」が表示され、“発着信履歴”や“ショートメッセージの送信や確認”、“アンサーバック（問い合わせ）”をおこなうことができます。

詳細は、30 ページの“送受信メニュー”をご覧ください。

緊急ボタン

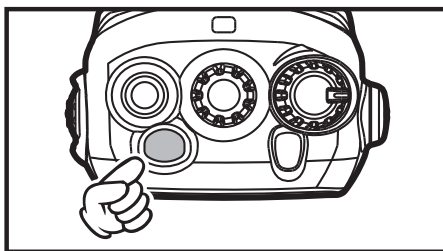
◎緊急ボタン

緊急事態をアラーム音とLEDの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して他の仲間に緊急を知らせることができます。

ボタンを2秒以上押します。

補足

- 49 ページに記載の“F06 緊急モード”で設定した動作をおこないます。
- 緊急アラーム機能の動作を停止させるには、電源を切ってください。
- 緊急ボタンはキーロックされません。



次ページに続く

緊急信号を受信したとき

デジタル個別通信時に緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局の ID を表示し、LED インジケーターが白色で点滅します。

さらに、しばらく何も操作をおこなわないと、電子音が鳴り続けます。

補足

- 電子音は、いずれかのボタンを押すと止まります。
- 緊急ボタンを押すと、緊急受信モードは解除されますが、再び緊急信号を受信すると、再度電子音が鳴り始めます。

緊急信号を受信したときに、PTT ボタン（通話ボタン）を押して送信すると、自動的に“一斉呼び出し”（同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出す）に切り替わり、緊急信号を発信した相手局に対して、音声での問いかけや、応答をすることができます。

自動的に緊急モードが起動するローンワーカー機能

一定時間、送信（PTT）操作が行われなかった時に、あらかじめ“F06 緊急モード”で設定した緊急動作を自動的に起動することができます。

- ◎ この機能を利用する場合は、51 ページの拡張機能 F09 ローンワーカーを“ON”に設定します。
- ◎ ローンワーカー機能を“ON”にした場合、一定時間（約 60 分）PTT 操作が行われないと自動的に緊急動作予告ビープが1分間鳴り始めます。その後、設定した緊急動作になります。
- ◎ 緊急動作予告ビープ中に PTT ボタンや他のボタンを 1 回押すと、緊急動作予告ビープが止まりローンワーカータイマーが“0”にリセットされますので、緊急動作は回避されます。

補足

- ローンワーカー機能を“ON”でご使用の際は、60 分以内に少なくとも1回は PTT ボタンを押して、通話を行ってください。
- ローンワーカータイマー値、緊急動作予告ビープの鳴音時間などを変更する場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

キャリアセンス機能について

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

本機は、デジタル簡易無線機登録局として、キャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、以下の 2 つの方式から選択することができます。

方式 1：送信（PTT を押す動作）のたびに、キャリアセンスを行う方式。

個別通信時は、自動的にキャリアセンス方式 1 が選択されます。

方式 2：一度キャリアセンスを行って送信した場合、その後 5 分間はキャリアセンスを省略することができます。但しこの 5 分間の中で、3 秒間の応答待ち時間中に応答がない場合には、キャリアセンスの省略はキャンセルされます。

補足

- 本機は、工場出荷時には“方式 1”に設定されています。“方式 2”でご利用になる場合には、お買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部（60 ページ参照）宛にお問い合わせください。
- キャリアセンス機能で送信が禁止された場合は、ディスプレイに“-Wait-”を表示すると同時に「ポポ・・・ポポ・・・」と電子音が鳴り、送信できないことを知らせます。

本機のキャリアセンスの動作と連続送信時間（電波法および、ARIB 規格準拠）

	キャリアセンス方式1 （毎回監視モード）		キャリアセンス方式2 （通話中省略モード）	
	時間	電子音	時間	電子音
連続送信制限時間 （送信の連続）	5分未満 （約 4 分 50 秒で予告音）	ピピピ	約4分 30 秒 （約 4 分 10 秒で予告音）	ピピピ
通話時間制限 （送受信の合計時間）	—	—		
通話時間リセット	—	—	3秒後	ポ

簡易リスト

待ち受け画面で“機能”ボタンを押すと、録音内容の再生や、自局の UC、個別 ID、グループコードまた、無線機の周波数を確認することができます。

項 目	設定値 / 表示項目	機 能
リピート再生	—	デジタル通信時に、自動で録音されている相手局の音声を再生します。
録音メモ	—	録音された音声を再生します。
自局情報	UC/ 個別 ID/ グループコード	自局の UC、個別 ID やグループコードを表示します。
無線機情報	周波数	現在の周波数を表示します。

リピート再生

本機はデジタル通信を行っている際に、相手の音声を自動で録音しています。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

補足

- 録音可能な時間は合計約 60 秒（録音状況により異なります）で、録音中にこの時間が経過すると、録音は中止されます。
- 新たに開始される録音は、既に録音された内容に上書きされていきます。
- 電源を切ると、録音された内容は消去されます。

① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。

② “リピート再生”が選択されていることを確認し、“選択”ボタンを押します。

③ 録音件数が複数ある場合は、“◀”または“▶”ボタンで、再生したい件数を選択します。
リピート再生件数は録音の新しい順に 1 から付番されます。

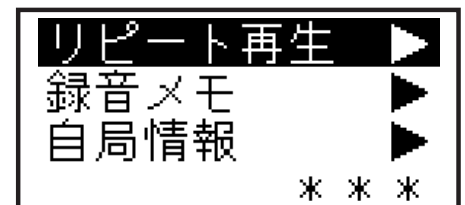
④ “選択”ボタンを押すと、録音された内容を再生します。

補足

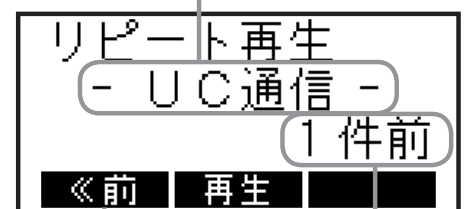
- 再生中に“選択”ボタンを押すと、再生を停止します。
- 何も録音されていない場合は“録音無し”が表示されます。
- 電源を切ると録音された内容は消去されます。

⑤ 再生していない状態で“戻る”ボタンを押します。

リピート再生を行う前の画面に戻ります。



相手局の情報を表示



押すごとに
古い件数を表示する

録音件数を表示

1 件前とは、「1 件目のリピートあり」を表す

録音メモ

録音ボタンを押して録音した相手の音声を再生することができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“録音メモ”を選択して、“選択”ボタンを押します。
- ③ “◀”ボタンを押します。

補足

録音された内容を消去したい場合は、操作②の後、以下の操作を行ってください。全ての録音内容が消去されます。

1. ▶ボタンを押します。
2. ◀ボタンを押すと消去されます。

- ④ 録音件数が複数ある場合は、“◀”または“▶”ボタンで、再生したい録音番号を選択します。

録音件数は録音の古い順に1から付番されます。

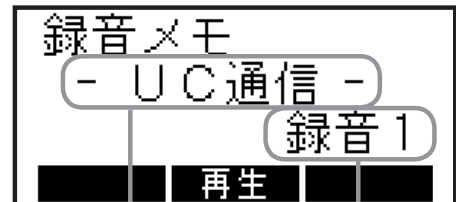
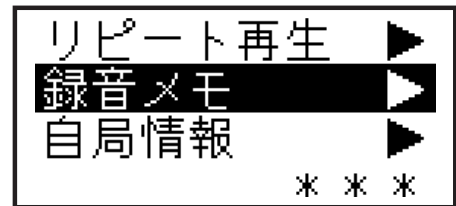
- ⑤ “選択”ボタンを押すと、録音された内容を再生します。

補足

- 再生中に“選択”ボタンを押すと、再生を停止します。
- 何も録音されていない場合は“録音無し”が表示されます。

- ⑥ 再生していない状態で“戻る”ボタンを押します。

録音メモ再生を行う前の画面に戻ります。



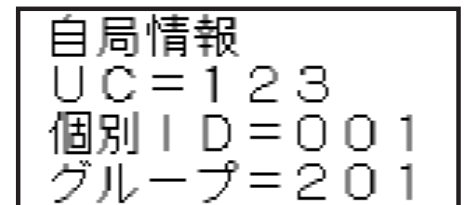
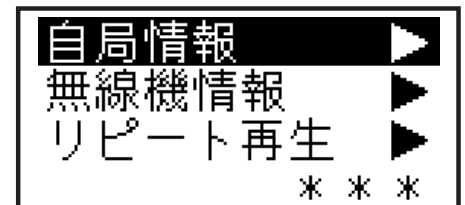
相手局の情報を表示

録音件数を表示

自局情報

無線機に設定してある UC(ユーザーコード)、個別 ID、グループコードを表示させることができます。

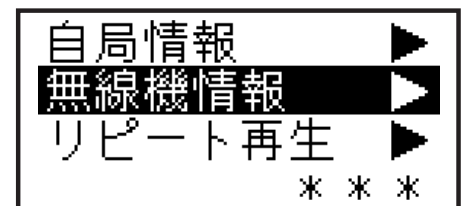
- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“自局情報”を選択します。
- ③ “選択”ボタンを押すと、設定されている内容が表示されます。
- ④ “戻る”ボタンを押します。
情報を表示させる前の画面に戻ります。



無線機情報

現在設定してあるチャンネルの周波数を表示させることができます。

- ① 待ち受け画面で“機能”ボタンを押します。
- ② ロータリースイッチをまわして“無線機情報”を選択します。
- ③ “選択”ボタンを押すと、チャンネル番号に相当する周波数を確認できます。
- ④ “戻る”ボタンを押します。
情報を表示させる前の画面に戻ります。



送受信メニュー ～個別通信時で使用する機能です～

待ち受け画面で“機能” ボタンを約2秒以上押すと、相手と交信可能かどうかの確認、発着信履歴、メッセージの確認などの操作をおこなうことができます。



工場出荷では、UC 通信に設定されていますので、機能ボタンの長押し（約2秒以上）は無効になっています。

項 目	機 能
アンサーバック	待ち受け画面に表示されている相手局と、交信できる状態かを確認することができます（拡張機能 F13 アンサーバック設定 ON の場合）。
着信履歴	着信した信号の発信元を、新しい順に表示します（最大 10 件）。
発信履歴	発信した信号の発信先を、新しい順に表示します（最大 10 件）。
メッセージ送信	あらかじめ登録されたメッセージ（最大 10 件）を送信することができます。
メッセージ確認	受信したメッセージを、新しい順に表示します（最大 10 件）。

アンサーバック

画面に表示された個別表示の相手局に対し、交信できる状態かを確認することができます。



この機能は ALL とグループでは利用できません。

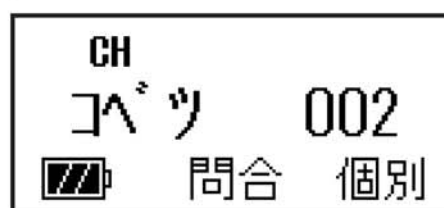
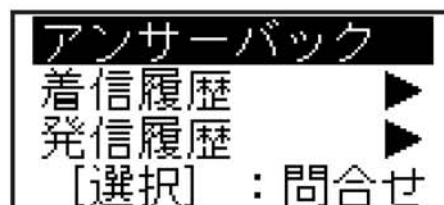
- ① 待ち受け画面で“機能” ボタンを2秒以上押します。
- ② “アンサーバック” が選択されていることを確認し、“選択” ボタンを押します。
拡張機能 F13 アンサーバック設定 OFF の場合は無効になり、送信状態になりません。
- ③ 送信状態になり、相手局に対して「問い合わせ」の信号を送出して、その後結果を表示します。

応有：相手局と交信可能な状態です。

応無：「相手局の電源が入っていない」、「距離が離れすぎている」などの原因で、相手局と交信できない状態です。

補足

相手局が VX-D291S の場合は、この機能に対応していないため、交信できる状態であっても“応無”となります。



問い合わせの結果

- ④ “戻る” ボタンを押します。
結果を表示させる前の画面に戻ります。

着信履歴

これまでに着信した信号の発信元を、新しい順に最大 10 件まで表示することができ、PTT ボタン（通話ボタン）を押すと、表示されている ID の相手呼び出すことができます。

- ① 待ち受け画面で“機能” ボタンを 2 秒以上押しします。
- ② ロータリースイッチをまわして“着信履歴”を選択し、“選択” ボタンを押します。
- ③ 着信履歴が表示されます。

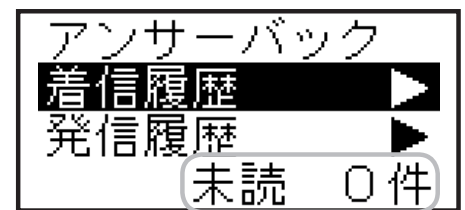
補足

- ロータリースイッチをまわすと、着信履歴を切り換えることができます。
- ► ボタンを押した後に ◀ ボタンを押すと、選択されている履歴を消去することができます（► ボタンでキャンセル）。
- PTT ボタン（通話ボタン）を押すと、選択されている ID の相手呼び出すことができます。
- 相手がユーザーコード“000”に設定した場合、着信履歴へ残りません。

- ④ “戻る” ボタンを押します。

着信履歴を表示させる前の画面に戻ります。

電源スイッチを切ると履歴はクリアされます。



未読件数

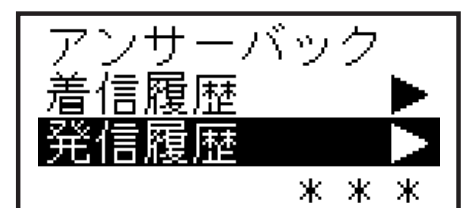
発信履歴

これまでに発信した信号の発信先を、新しい順に最大 10 件まで表示することができ、PTT ボタン（通話ボタン）を押すと、表示されている ID の相手呼び出すことができます。

- ① 待ち受け画面で“機能” ボタンを 2 秒以上押しします。
- ② ロータリースイッチをまわして“発信履歴”を選択し、“選択” ボタンを押します。
- ③ 発信履歴が表示されます。

補足

- ロータリースイッチをまわすと、発信履歴を切り換えることができます。
- ► ボタンを押した後に ◀ ボタンを押すと、選択されている履歴を消去することができます（► ボタンでキャンセル）。



次ページに続く

- PTT ボタン（通話ボタン）を押すと、
選択されているIDの相手を呼び出す
ことができます。

④ “戻る” ボタンを押します。

発信履歴を表示させる前の画面に戻ります。

電源スイッチを切ると履歴はクリアされます。

メッセージ送信

あらかじめ登録されたメッセージ（最大10件）を送信することができます。

※メッセージの設定は、販売店にご相談ください。

- ① 待ち受け画面で“機能” ボタンを2秒以上押します。

- ② ロータリースイッチをまわして“メッセージ送信”を選択し、“選択” ボタンを押します。

- ③ ロータリースイッチをまわして送信したいメッセージを選択し、“選択” ボタンを押します。

- ④ 再度“選択” ボタンを押すと、選択したメッセージを送信します。

メールマークが点滅します。

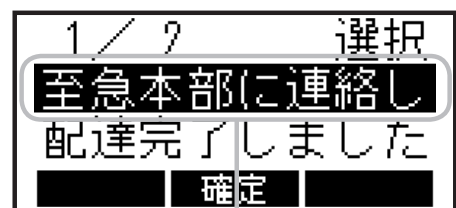
- ⑤ 個別宛先で送信した場合に限り、相手局に正しくメッセージが届いたかどうかの結果を表示します。

応有：正しくメッセージが届いた場合。

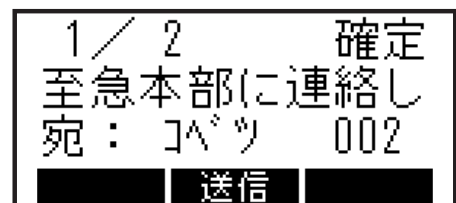
応無：正しくメッセージが送られなかった場合。

- ⑥ “戻る” ボタンを押します。

メッセージを送る前の画面に戻ります。



メッセージを選択



メッセージを受信すると、ディスプレイに“”マークが点滅し、同時にメッセージを表示（スクロール）します。

メッセージを確認後“戻る” ボタンを押すと、メッセージを受信する前の状態に戻ります。

注意 VX-D291S にメッセージを送ることはできません。

メッセージ確認

これまでに受信したメッセージを、新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

① 待ち受け画面で“機能” ボタンを 2 秒以上押します。

② ロータリースイッチをまわして“メッセージ確認”を選択し、“選択” ボタンを押します。

③ メッセージの着信履歴が表示されます。

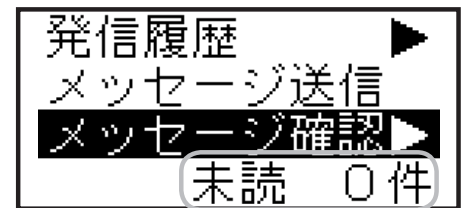


- ロータリースイッチをまわすと、着信履歴を切り換えることができます。
- ▶ ボタンでを押した後に ◀ ボタンを押すと、選択されている履歴を消去することができます (▶ ボタンでキャンセル)。

④ “戻る” ボタンを押します。

着信履歴を表示させる前の画面に戻ります。

電源を切ると履歴はクリアされます。



未読件数